昭和39年

1

遺憾の年でありました。

情によるど激励の言葉をい

|振興への基盤整備、 | 正や医療施設の充実、産業

上げます。(松之山町長)

所存で御巫います。何卒町 とに全力を尽して参りたい 所された。

とご協力を切にお願い申し、ける転職希望者のために設、れる。支給される手当等の

三百六十円の手当が支給さ

|置されたものである。翻練||内容は別頃のとおりである|

8君 新校舎にいかない

人(()円)の支給。 闫技

うたうれしい。 緒になれたことがほんと 方が気楽でいい。皆が一 まり言われると旧校舎の **うしちやいけないとあん** 

しかし被災者のみなさん一ただいております。

の細に蘇れて仕舞いました。ます。 将称三十八年は地辷り災

害に弱け、そしてこの恐し。た町民各位に、深く感謝の い災害のため不安と隠しさ 意を表し厚く復礼申し上げ

**着実に実績を積み重ねて** 

表する次第であります。 こられましたことに対し、 心からなる御同僧と敬意を よくとの言葉に催えて

一なる金額をいたしているも

を門出の年としたいとの切!

|服し郷土再建へ希望に燃え||上を目指してなさればなる|

今年こそはこの災害を克|機関整備等々町民獨祉の向

|新年度に於きましては引続||念また礬毛得ないものがあ

のことを思う時に、焦燥の いたしております。これが ぬ重要課題が交字通り出稿

き災害対策をはじめ、農地 | りますが、しかし急いでは

|理解ある御協力を賜りま・||学校被災校舎の復旧整備等||事情など充分考慮して周頸||を対象に、上越職業訓練所||九日までの三ヶ月、短期報 ならびに蟠成策について御 旧、県道町道の復日、小中 | 考えて町の財政状態及諸校 | 中高年今者、三十五才以上 | の期間は二月十日から五月 なおまた、町の災害対策 および農業用共同施設の復一ことを仕損じるとの言葉を

跡ばかりと云う、まことに | ん初め各方面から温いご同 本年も、年頭から知事さ|等の公共事業の松充推進、 | 観光事業の推進、遺境衛生 | 民各位のかわりない御鞭撻 | 配慮で地すべり被災地にお て行かればなりません。 この外に県道の改良工事|

の生産意欲が低調で、とり 談所では頭を悩ませている ならびに別掛、県の営農相| つくすべがないというのが が、なんといつても、農家

るので、町当島と協議の上「八町、六千二百万円、農地 | 後場で被災部落毎に説明を なりな飛鹿も低流にみられ。三億九千万円、(農地百二十)では去る二月の初旬に、町 の生計の万途についてはか。農用施設などの復旧事業費 | つており、その内容につい 題がないのではなく、今後 といつて個々の異家に間 9

だ激誌地では家屋の領接も 三億九千万円「農地施設復旧など」

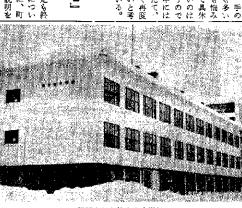
すべりの止つたところから着工

各声訪問をして質機に対す「保全施設三億三千万円)に「行つたが、昭和三十九年中」 地すべりによる変災蟲犯|ついては既に国の査定も終

農家は勿論のこと、町当居 の営農計画をどうすべきか 地すべり被災農家の今後一石れ分担して訪問を続けて

|る考え方や、生活上の要望|やらねばならず、又被災症 いるが、殆の曼家では働き 営展計画をたてたい方式で[つけられないととろも多い 十七戸を町役場職員がそれ を聴取した上で三月中には 地でまだ動いており、手の 現状から農家の方々も悩み

ということについては彼災 | 手が出縁しておる状況でも | 彼災部落毎の計画をたて、 にはなかなか困難の模様で |話し合つて推進したいと考 あり、具体的な意見を得る|押しつけるのではなく再度 伊川営農相談所長は「ま すでに被災一部落一百七| が多く、営農について具体 えている」と語つている。 おそくとも三月上旬中には 的な考えも出てこないのは (写真は伊沢所長) 無理ないことだと思うので



新築された松之山中学校

等、立ち会いで新校舎の引 二月十一日には村山職長

かという見方もあつたが、 ら授業が開始された。

| 築指導、商工相談などあら 新築早々で湿気が多く授

|以上災署関係審奨を取上げ| なる実施計画のもとに斎実| 松之山短期訓練所が二月十| 成コースとなつている。 に実績をつる重ねて行くと 日、松之山大武工務店で購 現在の訓練生は四人で、 一窓口となるものである。 ゆる問題について県当局の「糞の開始には無理ではない」 この影練所は塚田知事の |氏が担当。 訓練生には一日 毎週末限日を和談日に定一災害のため最終年の殆を落 地すべり被災者等を含む|種目は建築大工で、第一回 中、高年令者の職業訓練 二月十日からはじまる 講師は小り和男(松之山)

|同年六月十五日から猪又建||でも新校舎で送りたいとい 山中学校の復出新築工事は | べりのため取り壊した松之| た現在の三年生にとつては 日、八ヶ月ぶりで完工した 工されていたが去る二月七 設(糸魚川市)の諸負で施 | う切なる者様をうけいれた | 昭和三十八年三月に地す」もつかない分散投業で過し 松之山中学校舍竣功 久しぶり同じ屋根の下喜ぶ中学生

き取りが行われ、十三日か一三年の日君 子を選び、顔を紅潮させ乍 ら午徒産は ものである。 **隆雪の中、数室の机や椅** とても立派

**助るくて、せいせいした** 感じだ。みんな喜んでい 気持だ。ほんとに清潔な のような手当が変給されま な校舎で相像以上だった ああしちやいけない、こ そんな気持は一べんにと つたときは、どうせあと る。荷物を運ぶことにな んでしまつた。しかし、 たが、新校舎を見たる、 までよいと皆が言つてい ケ月なんだから今のま 場合。 その間訓練手当に変るも 年が訓練期間中延長され の百分の六十の額で最高 前にうけていた賃金日額 のとして被保険者が離職

11 いりことについてはまだ確一十二日には二班にわかれて「山担当の農薬改良背及黄桷」を受けた。場識所」にどの偏所を施工するかと「が行われ引きつづき一月二」めてあるが、平常日は松之「て昨年十一月二十五日表彰 口さんと高橋さんが駐在し (22) は次のように感迹を

| 断11 | 後の状況によつて、すべり | と、ヒニニー、断12 | 後の状況によつて、すべり | と、ヒニニー、新山の | だっておらず今春の青濯え | 松之山、兎ロ、光豊、新山

印田|の止つたところから藩二さ|上下川手、水梨、黒倉の巻

れることになつている。 |補助半は豊地八七・二%、

この一事費に対する国の

闘字は佐藤町長

り事業主体は農地は町、加一く、発言は低間だつたが、 施設九七・元多となつてお。会場とも婦人の出席者が多 | 神比率の高い耕地復旧計画 | 奏、聚事などの活動をつつ 部落を巡回し移動相談を行 出極期でもあるので、各 あるが、その間、教費、農 きてから本年度は四年目で |たちの努力で考率学級がで 水梨に中島茂さん(25)

などの脱詞を聞いてほつと また襲家の人手不足などと

は去る一月十六日は開所式 地区の営農を主として、職 した表情も見うけるれた。

着や青年達の中で町をはな」きを深め、自発的に自主的 水梨青年学級表彰

いくたの困難に会いながら、に行き、残つているのに動 ができたが、青年教育につ | 仮省会できめたのたが、出 から隣りの大龍戸にも学級。である。出かせぎ者の年間 振興法施行士周年を記念し、うので、 目下進備中である とがみとめられ、青年学報1の交換を交換でやろうとい いて多大の貢献があつたこ|かせぎ組と残留組との手紙| も運営しつづけた。本年度。め人と定時側に通う高校生 学級生の大半は山かせぎ

この相談所は地すべりの一れていく者や年今の点で学一に青年学級を通営するよう 一般をやめる者があつたり、一に努力すべきだと思う」 |は次第にバラバラになつて のべている。 ることだろう。農家の實年 自身が成長したことには、 殆どの学級生が気づいてい 「青年学級を通じて自分

被災地の営農計画急ぐ

地すべり地区営農相談所

学級 長の 中島 忠信さん といつている。 ろのと、これじや全くさ ゆうくつだっ 室がすすけるから注意し

7.0 二二五九万円が見込まれて 設備した明るい校舎である など六室、水洗便所などを で、これに対する国声補助 教室八室のほか音楽機械室 上三隋建、四九九坪、普通 総工事費は四八四二万円 新校舎は鉄筋コンクリ

てられていない。 はつきりとした見消しはた 年度に新築予定されていた が財政事情などから、まだ 屋内体機場は昭和三十九

せめてもの幾後の一ヶ月間 いてはつぎのとおりとなつ が、即練中の手当などにつ は宮農相談所又は役場の最 上)の転職の希望について 業例で相談に応じています | 市高年全層(三二五字以 職業訓練手当

材等は一切無料である信次 翻練期間中数科醫、实習数 ています。 選成訓練をうける者には

一、矢業保険受給者である|

1)失業保険給付期間一鍋 婦は一月九日大島保健所か ら着任。二月中は都合によ □足幾代子(24字)保健

但し配偶者と第一子のみ | 旨を必ず役場へ通知する様 親族加算として挟養親族 | 求戦中込の際不都合を生じ 八六〇円の支給。四扶養| 険をかけて居る人は帰郷後 人につき日額二〇門 ()ますので、失業保険加入の 失業保険について 出線者が出線先で失業保

から入つた方がいい。梁 トープの煙を出すと、教 はよく落して入れの、ス 外新校会はごそまつだつ 力がいい。そういう者が れるの、アノラックの雪 がつたにとべば床がこわ た。まだ仕事をしていた 相当いる。きちんとして 〇円(訓練をうけた日に 能修得子当として言願七

二、失業保険受給者以外の 月龍三千六〇〇円の支給 般失業者。 **居親溪と居を別にして訓** 宿手当として配偶者、同 類四〇円)の支給。 得手当として母類と○円 穴○円の支給。三技能修 ①訓練手当として目類三 にして訓練を与ける方に 喝者、同居親族と居を別 の者は日頸四〇円)の支 張る。但し通載二氏以内 (通動、1式以内の者は月

楽によります。 付制限がありますが、その ただし所行のある場合は給 内容は公共職業安定所の指 六〇〇円の支給。 練をうける方に月額三千

山岸保健婦着任

べりの茲災者からの陳惰に 応え深出知事が、一名の駐 があつたが、このほど地す 見つけてほしいという要望 落の方々から早く保健扉を 人履や、診療所から遠い部 なつており、幼児をもつ婦 保健婦は洋春以来作所と

こととなっている。 び山岸保健婦が、勤務する が、交代し、三月からは再 り、同保健所の石川保健婦 だろう。

この人夫は強制割当で

altagathigrithing integral

私の発言!

仕事は自から創るもの

追いつかせるには、私共の一思います。

げて私の御挨拶にしたいと、目的完選までは……。 いますので左記にこれを掲げな」殺されても放すな、

のだ。

一人一人、特に復興の尖兵

仕事の十則

### 米と牛と出稼の 一本足で

県道が月池を通る日に夢を 甲斐性ある月池男、だが婦人は異論 歯医者の出張診療を切望

◇月池◇ 神秘の丸 といった感じ つて西へ、近 なり悪くなる は急に登りと 中島橋を渡 像をするに強いない。 いつの時代からか始まった れるようなクラジカルな想 )も万葉の特歌にうかがわ しかしこの部落の人々は

三十四万の小部舎である。 橋がこの部舎の門口である ろか細い月池川をまたぐ二! 「昔この辺は丸い穴きな池」た土地を多い人は一町歩も きな別け込みで池はなく であつたが、いつだか大 標高五二○#~五八○# 歩いて三十分というとこ である。 一今では荒地となつてしまつ | 料もあるという。 の歩みをよく知つている。 伝え聞いているだけでも四 転したものは、この人達が 地すべりと絶え間ない斗い 地すべりのため部落内移 すべりはその後もつづき

がこの部落だといわれて一である。 なりそのあとに出来たの) 地崩れが侵蝕している現状 農家は宅地のすぐ近くまで 杉の杭をうちながら それだけにここでも幾人

0

と佐藤さんは説明する

から知れない」

えた九八個小乗して水を凍その皆満々として水を凍 静寂さをひそめていたこと べりだろうとも人々はいう その抜け込みはたぶん地す 一だから突き池が行んと ればならなかつたのである もつ部落の悩みを聞かなけ かの人々から地すべり地を らなければならない。 べりの為に道路補修をや とんど毎年のように地す に三カ年休んだだけでほ 「昭和十六年から今まで

ただ月池とだけ書けば誰| 呉からもいろいろ面倒をみ 力にならないもんです。 がこの費用もなかなかべ なる一 し合って打ちこんでいた 一戸当り年に十八人位に | 望がある 三初めの頃 は杉の枕を出

てもらつているが検打ち工しというのである なかつた 「今までに何度となく安

からで今年で百四十本のコ 事がはじめられたのは昨年 工事についてたくさんの要 ることになつている。 ソクリバイルが打ち込まれ この人連には地すべり防止 今までの苦しい経験から

方面へ防上工事を関情し はなかなか汲んでもらえ てきたが、地元の云い分 塚土本出張斯をはじめ各

だから災害は自分もちだと ちないことをよく知つてい ちだけの力ではどもにもな 工事はどう考えても自分た

調管拡の打込作業する月池の人還 あろう。 状況におかれているからで 部落からの矛盾そのままの がなされるのも、 いまこの 性定の矛盾した二つの施説

例外ではないが。 襟には例外なく地すべりが 紀暦の分布は広く、この地 りは第三紀層地すべりだと 北陸地方を代表とし、第三 長野、常山、秋田など東北| いわれている。勿輸月池も そして今回でも、新潟、

である役務職員、町議会議。その一、任事は自分から与れるのとでは永い提に天」の肥料だ。でないと街は早ばけばまだまだ月海の前途 誰でも実行出来ることと思 その五、取り組んだら「放」の際もあつてはならない。 廻せ」引きずるのと引きず[な] 摩擦は進歩の母、積極| |その六、周囲を一引きずり||その十、一 驟擲 を怖 れる| THE PROPERTY OF THE PROPERTY O サービスとはそのようなも 多発しているということで 廻る成績である。 |均十三万四千円が出荷され あろう。 ていることも特筆すべきで このほか肥膏牛四頭、平

自分の夢を娘に托すのか しかし反応、おつかさん 「親の慈目か、自分の子 五〇人のうち

|自信がないから対の仕事に |選挙に頭らされることのな は迫力も粘りもそして厚味 い、関るい明日の松之山を 根生や派閥抗争、取は買収 お互いに創るうではおりま となく、年輩の方々は地区 方は になうない位梁になつた | 二%を占めている。 私達の嫁の頃よりは話

ど成し遂 その九、頭は常に「全回 せんか。

すらない。

「転」八方に気を配つて一分

(松之山町駿会議長)

だ <u>に</u>

これら行簡の年次別振移"町村合合併により役場が支

災害は自分もちか つてはならない 酬われざる悲騒であ

界のことやらで部落の法 ると負担金や5土地の境 らないのではないか」 に立つて了る」 ないと思つても諦観が先 自覚していかなければな| 一やはり自分の災害だと

地すべり防止のための対策

いうことについて、否定と

いるいわゆる松之川地すべ いま町の中心部を安して

市場平均価の○・二%を上 一頭半均価格三万一千円、 の存件の出場頭額は十六頭 ればうんと高い。

か青年諸若はイデオロギー 以上の通りですが、どう ž はようようたるものだとい 米、牛、出縁の三本足で

員、その住各公職にあられ「「能る」べきで与えられる。地のひらきが出来る。

こうこく ショウよい

や組合組織に拘束されるこ たくない しという 供はこの部落に線入らせ O 女生人

山事一と

その八、一自信一を持て、 努力と希望が生れる。 もくこと |忽耐と二夫とそして正しい 光手先手 |長期の計画を持つておれば|

その七、一計画」を持て、

屈未線にたる。

| 陳情をしなければなら

気もいろいろに変つてく 「地すべりも長びいてい」けているのである。 一百幾万の人々に共通なとの

と肥育 いし条件はよい」

甲斐性ある月池男

| 図では坂中についで二番目 | 田二町四反に一台の部合、 |松之山平坂九万八千円より||町平均三町歩よりやや優位 額は十五万八千円で湘田地 農家一戸当りの設産物販売 百個位売るようにした

他の年の飼育率は七三・五である。 ||宛町平均四心・五%に比べ はるかに大きい。 昭和三十八年松代市場へ の成績を上げているに 「牛の仔取りでも、可成」は甲斐生あつて腕きさとい

ぜだろうか 一時間に縛られないし、 「円稼の仕事も行踪が多

り多くなつて、私は焼い に使われるよりはよい」 も室です。重労働だが人 「そば屋もこの頃めつき

| 極を職種気にみると総数元| 待している。また農道の改 もなみに今冬の町全体の出|日に、人々は大きな夢を期 建築五二 そば行商六九 全長三千米のうち既に三百 二三三四四 店員一三七|てもそりたい一という。 いも行施二六 雑貨行所 米を完了している。 | 呉遠が部落を横断して行く 修ら補助事業としてどう

いも、雑貨行商が全体の十 などとなつており、そば、 一人 炭鉱二三 酒造四 料地の拡大と併せる新--い月池作りへの夢というべ 肌で感ずる町政のこと 町中失から約十二キュ、

行による) との年令になればそう館

一病める大地に生活する全国 い楽士にしたいと考えてい |誰しも、自分の郷土を輳し||夢を娘に托したいという切 る。否生性そう雙待しつづ ひとり松之山だけでなく

歯医者の出張診療を

あってはならないと思う。 特筆すべき与の仔取り 「百姓するには耕地も近 ある。ほしいという気なる可能で

しせいぜい米を八十俵か 「機地もまだ拡張できる るから嫁に来てもないと いりが、案外そうでもな 「百姓が多いと骨が折れ

審集との人が云うように月 : の胚の強介でなければ幸い | 萩林崑葺公はが二:町歩の | うのである、ひとりオヤジ|| りをやつている| | 転うん機は現在十二台、本 | るを得ないのだろうか。 というわけ、だから月池男 地に柱林をこしらえ近坂 柱林で小使いかせぎ いうので、昨年から町有 「なんとか小使い銭をと

と若り保収さんはいう、な 県道が部落を横断する日を 夜泣きそばやも搾き門 くなつたのではないか。一の収入になつたという。 部等で取り組んでおり昨年 はこの人夫質が約三十万円 柱林を計画し、月池はか三

腕しだいで利益も多くな | 方道高田松之山六日町線の | 該当した時、各々の年金も |ある。それは月池が主要地||る念中、次のような事項に 通過地点になるからである | 受給できます。 は出来する限りの膨刀を この部落にも新しい夢が 「この道路の政修工事に

しているわけです」 保険料無染承認されてい 料納付していること。父 国民年金に加入しており としての者が共の死亡的 子がある寺。 (支給要件 大と死別し十八才未満の 一年以上引きつづき保険 【母子年金】

二、【準世子年金】 子状態にある時。 大、父、又は祖父が死亡 した生、その者によつて 生計を維持した女が準母 (支給

要件に準する)

||次号へ続く|

てもよい。)

ある(建設省地質研究所発|それはひとり親の然日だけ 単に出来るものではな 『一口に移転といつても | る世間一般の考え方なので ある。 ではない、鮮地農村に対す

寒さからであろうか。 婦としてせめてもの自分の 配いのすくない農家の主

ねがいが酬われざる悲願で とも仲々できない、なんと一百幾万の人々に共通なとの て、松之川まで出かけると 性しいおつかさん方にとつ か出張診療の方法を考えて きないものなのか 一案医者の出張診療はで

い、今までの嬢さんはみ、ちがつて行く人々、夜なき、りないのである。 者のうち、そばやといもや で七人も出ている。 と著しい境加となつている | は絶対反対だ | と一国は同 農村から田稼で部市へむ。れて行く町取となつてはな 月池からも十七人の出稼!

んな条件のよいところか。そばやも文演き門となるざ。町民は多くを誇らないが、 ているのである。(飯記) 肌をもつてそのことを感じ 程立, 草酱,

町民から遠くなる役場に

《 三八年二三人 三七年八九人 る。「だから支所の廃土に が遠のいたという感じであ

は、昭和三六年六八人 所に変つた。可改からだい 撒拿大夫 美震學 優良土産品として出荷されるトキ

国民年金のはなし

除承認されてい を納付、交は免 支給は、六十五 れまでに保険料 からですが、そ 才(叉は六十才) に 6る老令年会 **凯出側區民年金** 

その他の年金 のとと

光夫、昼夜二交替で一番方 れない位。仕事は炭坑の棚|

んでねるばかりた。松之山

いのが現状だ。 で正月もあつたものではな 四日間も欠まず化事化事で く張り出動し、正言体みの に四、景国の公体を体の続 一分の好きなものを買つて食 ずが悪く、近くの声から自

地すべり敬災の人達と同じ

夜といつても別で「杯の

郷に門が降るなんて僧じら|良い方だと思う。

征目いい天気。これで新|いので量は充分でおかずも

相 沢 美之吉 (水梨)

かぬ。食事の方は費用が高 |にがんばつているが仲々い

の引五寺冠は早いが唐雪の|から三人来ているが、正月

一緒に故里へ行つて来た。

**茨城県(関本炭鉱)** 

今年は暖かく、松之山の 山口縣 (著山族弘)

涌井福一 (五十子平)

収納取扱所で収納を完了し

掘って掘って又掘って

焼酒の味に目を細めるとき

べるようだ。人員不足で見

Щ

日いい天気だ。ことは亜灰

穴の中の仕事の私達には、

一日三変替で一週間毎にか

(3)

は募集の時の話ほどにはい

かない。一日二千円を目標一い。食事は麦飯。飯代が安一に、この仕事にひびくか一一

出るでなし、正月気分もな

三時までだ。仕事は楽でな まで、二番は五時から<u></u>至朝 鉱で坑内作業をしている。 天気はどうでもいいが、毎

一番は朝七時から晩の五寿

者に気を使つてくれて助か い。現場の係員は出かせぎ |は体の具台が悪く||番つら| わる。かわり目の二、三日 も少く、賃金も用にいい。 る(猫進)心事なので危険 者の仕事は新しい坑道を握

新しい換金作物として大!た。 年度は一・五倍に

の増反が見込まれ、耕作者 と違い、比較的弾力性があ 労力投下の面では他の作目 「稲作と競合しない。これは 一けと価格が補償されている の長所を上げれば金銀買上 と思われる。薬たばこ栽培 一五〇名以上に進するもの 昭和三十九年度は約五割 \* \*

り、1111トンを収獲、去 養蚕と共に大いにその遊服 | さえ吹き、フキのトウが出 | 決しようというものだが、 る十二月二十二日安塚庭時 たが、それでも検査面積は 希望面積一○・九八へ々々 援助により、本年度の耕作 害のため一部耕作を取止め一つて調整が容易であるとい 専売公征と県当局の理解と|ことである。労力の点では **要望は三年前からである。** 行なつたが、その成績は砥|数も本年度の一一五名から たばこを戦増したいという 地帯という環境の中で、業 わ良好であつた。山間豪雪 はじめて薬たばこの穀焙を ールが許可された。 地上災 | ○・七八ヘクタールとな| |が期待されている。本年度| ているが、出かせぎの留守 | 先づ婦人会がとり上げ、日 増大を図るため、米、和牛 うことである。機業所得の

耕作者数 一一五 耕作部落数 二三 耕作面積 一〇七八 出荷量 二三二千死

班当平均価格 IICXC円 収納代金総額 一〇アール当平均量目

《 循格 六二千円 一〇フール当量目最高

一〇アール当価格最高 「についし、婦人消防隊につ → 最低 一〇五年 育について、或は地すべり るため置かれている制度で 九九千円。いてなど冬の生活の中に出 三一〇年 また留守宅の子供の家庭教 三〇六郎 計画されたもので松の正町 出かせぎにいつた火のこと した。これは県の婦人会で ので東鎖城郡の婦人会は各 でもやることになった。

します。

|の成績は次の通りである。|家庭をはじめ、大ていの家||下部落毎に会合がもたれて| 百万人の話し合い運動 運動」というので部落るげ 今年は珍らしい冬で附属 | 出てきた問題を一つ一つ解 **婦人会の多の事業** て、町あげて話しあり中で 最低 三一千円 て来る問題を活し合う。 もとは「百万人の話し合い

こういうときに、みんなが では冬は仕事がないので、 し合うことが大切だという。 ひざを交えて、とつくり話 いろんな心配事が出て来る しいるっ

町村で「話し合い」を計画 | て法務大臣の委嘱を受ける | やつている。一般に会社の |恒治さんが当町の委員とし|出前が多く、六人で配達を | 今度新山(ほしば)山屋| から夜+時までで店よりも 人権擁護委員に 山岸さん

ている基本的人楠を擁護す。楽しい。 一蔵委員は、国民に保障され」かれたけれど、今ほとても ご兼知でしようが人権権 | は働く時間がながいのでつ 私的情報。人身元賞、村、必要の時は何時でも使して

の侵犯、その他法律で同事っ代、体み毎にICCHI 八分、酷便虐待や生活在| 料で相談を受けることに お困りの問題について無 かされたとき等いろいろ められた権利が不法に犯[のこづかいが出る。

なつていますから、お気

付下さい。

東京都 (夜鳴きそば)

相沢 亨(小谷)

十二月は昨年に上べて風

軽に新山の自生へお出掛|の吹く日が多いようだ。私 一 夜なきそばという仕事は が、とちらへ来てから一ヶ 達は天気の都台で休むのだ

勤

いので、量ほ光分だがおか | 【写真】第三山頂で働く佐| 月の間に十日ばかり休んだ| 藤鷸松さん (天水越)

|そういう日にはきつと山の | ろ。実備八時間、三交代は | ば寝る。公休日にも出てい 佐藤 嘉市(天水越) 四月頃の気候だ。仕事は探 量だけは充分。時間は六時 |転は午後0時(正年)から:当以上多くなりまあまあと つらいが仕方ない。食事は「く。

出稼者通信特集

見ながら燃剤の味に目を細 の楽しみといえば、小事の にならぬ。夢にまで見る窓 朝の迫つけとはくらべもの

岐阜県 (共立炭鉱)

はなし合う。私達出かせぎ 向うの新潟は害なので皆で]

小野爆囊数 (上願池)

ほか二名

**あと風呂に入り、テレビを** しい女房のもとをはなれて

にすごく寒い目もあるが、

ž 2 ×

夜

く請負でやつている。給料┃があるが、季節には何一つ┃だが、どうしても寝不足。 |るが。本鉱員には年末手当| 時頃まで。昼間ねむるわけ ころまだひどく寒くはない」とはバンかめん類。重労働 正月後の不景気がどのよう 仕事は晩の七時から朝の七一だ。 初雪があつたが、今のと ている。米は一日一回、あ 東京都(そは売り) 高天, 進 (湯之島) 笛吹けど景気は下り気味 と自炊で、主に野菜を使つ 番の心配事だ。食事は仲間 小林イン (上鰕池)

とちらは冬も凄い。たま「炭失で日夜働らいている。 | 十二時、五時。残業や運動 | 仕山しを始め、午後五時近; いつたところ。新潟米 / 松 |給料はまあまあというとこ||をするので、ひまさえあれ||くから商売に出て、帰えつ| |で寝るのは翌日の午世三時| れゆきもいい。合成が少く| 暖くよい日和だつたが元日 |くづく思った。私達出稼者 | 貧農の生活はきびしいとつ 依まないで仁事に出たが、 |読書などしている。正月は め休息し、手紙をかいたり こり「割から二割は死上げ | 分連りは東京へ出荷する。 みぞれたなつたりで今冬のごうも | 般に不長気で非年 | なり液調がのびている。丸 | からは雨になり、はだ寒く 体みの日は複労国復のた 代) も大分人つた。酒」話

は次のことを町にお願いし

|、出稼ぎ収入には税金を|で、倉人、九名。給料は月|う。充分に食べられるから| 控除すること。 月に1、国の休日がある。 晩酢の力で遊びに出かける いる。今の所鑑はない。 食事は充分ある。若い者は 仕事は酒造りである。少 比の項は所はかり降つて 舊山県(獲酒造) 高沢彦市(天水島)

毎日よい天気だが朝夕は「二、流感の予防注射は十月「良い方だ。新潟日報が一日 給制で手当等なし。食事は さな倉で進石高は二千立程 休みは決つていないが雨の 食事も私は良い方だと思

> のがせきの山だ。 長いので帰えると一杯やる が入つている。作業時間が

(四貫へ続く)

|に花が咲いている。朝八時 | 員十五名のうち十三名が松 之山なので毎日刊舎の話し 令えこみがきびしい。 従業 料にすること

|れましたのでお知らせいた|お得なが多く、夜は会社の| 残業食を受けている。始め

くれる。一日に二十円のお **給料は二ヶ月に一度だが** るだけ確保するために無理 で、年間の現金収入を出来 |ぎの労働条件は年々悪化 な労働をしている状態です 労働強化と危険な条件の中 以上の四項目ですが、出標

れるでありましょうが、積したします。 のしめる朝台は大きいもの |町の収入の中で出稼ぎ収入

と思いますがそれなりに町一極的に出稼者対策を緊急に 当局も施策をすすめておら 講じて下さるよりお願いい 務は二交替 -(

愛知录 (神杉満岩)

51140

山岸信治(新し

中はシャツー校の姿も見え 朝夕は少し冷えるが、日」でいる。 三飛原(宮崎糟造) 高橋武男(天本記) 松之山人で気楽な精米 。退のことがよくわかり苦ん おくれで郵送されるので故

一気にならぬ。松之川から七

毎日暖かだ。建筑のこで

人来ている。精米形の人は の仕事だから天候はあまり

た。仁事は孤遺で、朝八時一ので帰郷した。 年の群れには積雪もあつ 長岡市 (中越酒造) 褶原浩祐 (小谷) | 依みが今年は一週||あつた まではつきりしない。正月 晩は五時達。 給料は空る時 合い、気楽だ。朝八時から 金貨、松之山人だから気も

ţ

川崎市 (范島建設) 休日には洗濯やお針も 内 作

・見れば給料も一日に百五十

で、一週間交替で去年から 後番は年後一等から十時ま 早番は朝四時から午後一時 動務は八声間能の二交替で 私選は精米部の仕事だが、 暖くてすごくいいところだ

危

幕の三十一月までは大変 和久井由雄(水外) 和歌山県(前田建設) このへんは台風の通り道 **浦井盛義**(五十子平) 志賀由定(下川手)

||みぞれになったりで今冬の「で毎日のように風がある。 |何所へ行つても同じです。 により時間は一様ではない 聞から見て給料はまず最低 ||うことになつているが仕事|| ろであり、作業の内容、時 る。仕事は土力でシャベル」の炕内作業だが、朝六時半 川崎は変りやすい気候であ 匡道四十八号線のトンネル でもやる。八時間労働と云 二交替で石山の危険なとこ 一丁が道具で器用な人は何 から晩の六時半までの昼夜 仕事は辛くない。給料は、だ。食事も量は治分だが、 一最低だ。十畳の部屋に八人

に行ない、 出稼者には無

恋じて誓利子で貸付ける 要とする者には、希望に 族の生活つなぎ資金を必

三、出稼ぎ仕度金や留守家

|四、田稼者がまとまつてい 流会を聞くこと。 る地域では、出級期間に 一度、町費で出稼者の交

る。働いて 時々出るの 地すべりが レビニュー うまい。テ ので食事は がはげしい スで松之し で様子が解 いる私達も

充分、労働会事の量は 原外にたく 売れ行きは 来だ。 酒の があるので 九年の経験 業はなし。 さん出る夜 から五時迄

お其を習り錦木税干さん(八谷)

んがいないと、とつてもさ をあつかり仕事をしている

幕を聞き手伝をしたりしま るところ、やすんでいると

出かせぎに行つている。こ

**\$** 

うちの父は、埼玉県まで|でもすぐ親にさからつてし

こ飯はたりなくないですか

嫡田小学校(藤原) - 久保 目澄子

蛸子も、お母さんのヨ5|

いるときがある。働いてい

手紙の中に写真が入つて

校で思うのですが、お父さ一トみたいなところで、荷物

出ています。私はいつも学 はいり、 ぬいものにせいが 方ではお母さんがこたつに 雪がつもつています。家の ちらは今三十センチぐらい

の

## の方々も元気でしょうか 组成议

#### 浦田小学校六年(湯の島) 久保田文子 お母さんはぬいもの そちらの仕事は―

私達も元気で働いています お父さん、お禿気ですか|す。

お欠さん、かすりきずの万 がつもつていますか。お父 い。帰つてくる時は、元英 こちらの出も白くなつてい|ようなら。 今そちらはどのくらい雪

Щ

はだいじようぶですか。ま

松半小学校六年(天水越) 佐藤松夫

る

か

たけがをしないように働い

方がかわいそうだなと思つ言つています。私は、蘇の る所もあります。 月にこないかな』といつも

の山は、白くなりましたかしい。お体をたいせつに、さ お父さんも返事をくださ

**州子は「お父さんがお正** 

出



ところでみなさんは、こ これからいろいろとしつ

をやつているのですか。こ。事に、冬は川崎市のデバリーこの中のおとうさんが「おしんな仕事をしていますか。 は富士山の四台めの道路工 だ。こんな写真を見ると、 かりやれ、と言っているよ。そちらは寒いですか。あつ。なしいとか、苦しい、おも きいて、勉強や手伝をしつ|間しますが、聞いてね! かあさんの言うことをよく いですか。

ぼくのおとうさんは、夏、とろなど、いろいろな写真「私で書いています。

夏富士山からかえつてく こつちでは五十四以上も

### 早く卒業しておとうさんに 松黒小学校六年(天水越) 佐藤けさみ

お父さん、仕事をするの。お金をたくさんもつて来る 校にやつてくれる父です。 くなつていいかえすことが

か。仕事は楽ですか。夜な一はとまるだろうなあ。 ご飯はたりなくないです。いるのです。父のいない家 たする父がすきだ。 といいけどなあと、思つて 早く卒業してこんどは、 ある。そういうとき、みか

に寒くありませんか。

どしています。こちろの方。なんばつてお働き下さい。しなくてはならないと、つく お父さん、お元気ですか とは寒くありませんか。大 けて下さい。私たちも二十一それまですうつと父はいる たのだろうと思つた。

昭和39年3月

は、もう雪が五十四位なつ

子が七ひき生れました。大 います。家では、うさぎの たので、今はバスが通つて

六日から休みです。

ではお元気にさようなら。父に勉強も教えてもらい、

良い子になろうと考える。

いい人でする

で体にはじゆうぶん気をつ

お欠さん、むりをしない

私たちら、みんな元気にす 変つかれるでしようけど、

**うして、苦労し、やつとの** ことお金をためて私選を学 | さなことでもおなじにおこ 父は四月頃に帰つて来る | 忘れてたのになあ」とにく る。わたしは心の中では **世は大きなことでも、**ハ

| よいでいたら見に来てくれ | ザーが来たので、県道には してわたしははずかしかつ |見に来てくれたのに、どう||ら冬休みに入りました。| 一ずかしかつた。あとで弦は もじきになるでしよう。 ぼ ととしの夏のおぼんにお いかわらず元気です。 とちらの方は、ブルトー

おとうさんにお金をかえさ たっわたしはちよつびりは

わたしの父はほんとうと ければ体めないのでつらい そばの売れ行きはどうで

どいろいろ考える。 な、それともどこかな、なしないで且くかえつてもら 今どこにいるかな、川コか | いることは、病気やけがを さんははりきつてでかけて、いように、もし病気にかか いつた。 冬などはしんばいだ。公 学校にいつて授業中など へんだ。今ほくが希望して 山が色ずくころ、おとう人が、けがや病気にならな つたりしたらそれこそたい いたいということだけだ。

### 稼のみなさまへ 三省小学校(小谷)

ちょうどびんせんがなくな[ 皆さんお元気ですか。 一貫がつもつています。 相沢敏子

いますかの 時、どこまでいつて働いて るのですか。 く事のしたくをやつてくれ それから仕事をしている 家に帰って、だれがしよ

どんなことでしようか。か たくさんあると思いますが しるくないという日は、ど いままでにりれしい事が

日までにどうしてもおくつ らえますか。 いつじろまできゆうかをも ういう日ですか。 いま恋いたことを一月六 それから、いつごろから

てねだそのほかにも知らせ

# そばの売れ行きはどう

お父さんお元気ですか、「すか。この前来た手紙には」が一番よく、上役はホクホ 常田小学校(湯の鳥) 高沢保

父はわたしのことを思つて | くたもの学校は二十六日か | てくる時には元気なすがた | 雪がありません。今日は雲| ている人も元気ですか。| お父さんは雨でもふらな。寮は無埋のないようにして たはげんでください。 は食堂で働らいている。朝お体をたいせつにして仕事、境は身にしみる寒さだ。私 で帰つて夹てください。仕 |生けん命働いてこんど帰つ ですかっ お父さんと一しよに働い の久保田廰一郎さん】

時間で十八才以上の人が順

「ほくをはじめ母も妹も、あ」だいぶいい方だと響いてあった。正月休みは六日間あ |りましたが、その後はどう||り、伊勝必りをすませて映 **厩をみた。【写真は出稼先** はまあまあだ行商の成績は 東洋海十社のうち山田工場 香にやる。給料、年米手当

東京都(岩戸木工) 相沢高吉(松之山)

毎日いい天気だっだが朝

るとき、絵はがきやめずら|年も、玄関がこわれたし、 ろなものをみやげにもつて だ。家がつぶれたりしない しい確木やつえなどいろい |多雲がふつたりすると心配| かな。こんなときおとうさ てれ いう所にはいかないでね。ではさようなら あるといいましたが、そう一場におくつてねっ おからだをたいせつにね |不良がたくさんいる所が||さいしよ返事を書いたら役 いうのをわすれたけれど、

(前耳より続く)

業で稼ぐ毎 給料はまアまア

残

直和津市(ステンレス)| をやる。夜間動務は往復べ

|さん迷の働いている所の後| なすがたで繰つてきて下さ| つてしまつて、原こうよう| 何時ころまで、続けていま | やつている。動務は二十四| は五日間あつたしパスも通 何時ころから仕事に出て など、中間、最後生にだを で現在休みなし、正月休み により夜間、又は深夜残業した。 |仕事はステンレスの板の中||普通だと思う。被間外認識| 時間を三交代でやり、都合|るので全員帰宅し正月を過 め雪降りの時は風がひどい --ラ掛け、交は板をのばす | 亦は洗濯、会社が忙しいの 競響はないが海岸端のた 小野塚茂(光間) ロもあるので大変つかれる スが不適のため殺まで四キ し、空腹を感じる。絵料は

日が続いて冬 給木悦子 は細から糸に しない。仕事 みたいた気が 毎日獲かい (小谷) に仕上げの方も手伝つてお

番 (朝五時~ 一時三〇名 難務時間は早 ている。 なる所で働い

分~十時)早 巻(1時三○| 聞だが夜通し仕事をすると してまあまあという仕事だ。日間あり松之四へ帰つてむ はんのおまじない。全体と |くない。年末手当が出たが| たにない。給料はあまり良 ともある。辛いことはめつ から全国に発送する。朝八 |は全部この会社で扱い、駅 時から夕方五時までが定時 食事は大食堂に板前がい )かえた。

|充分。若い人は一寸足らな そうだ。一日分百五〇円。 (アカロリーも計算し、飯は たので帰省した人が多い。 正月休みは五日まであつ 長野県(ダイヤ豆鷹)

|朝八時から夕方五時まで。 |続きで日中は暖い。 仕事は 諏訪湖のほとりだが、寒 **浦井光栄**(五十子平)

**五時から夜は八時頃まで。「残業で大変だ。給料は男の** 二日おきくらいに二時間 徳定さん(湯の島) 【写真】そばの屋体と妻島

『仕事は楽だが』給料はすくない

たければ暖い。雑誌家の光| 事は充分に食べられる。 風は非常に冷たい。風が 水に及ばず残念だつた。食 東京都(神田運送) 津備寛己 (光間)

日は退屈で医る。三月は三 おかずも、量も最高だ。休 は七時頃までだ。食事は八 イタで配達。朝八時から晩



よつてさまざまだが、九時 | 週で働いております。 野菜を多く使り。夜は人に 分よくなつたが、仕事が重|すが、十二月の下期は三十 ている。食料は非年より大 人もある。魚は週二回で、 労働なので足らないという | 日に給料、ボーナスは二十 松之山から三、四十人来 は云え、営動の人と同じ符 五日に出ました。冬桜ぎと 日が月給日となつておりま 業をやつております。 給料は十五日ブ切、二十

風呂に入れば十時になり、 には親類に行く人が多かつ 頃まで残業する人も多く、 べりの話もする。 正月伏み 故郷の話をしてねる。地す|社長一家とゼスチャーなど 田山ドライブをやり、夜は やつて楽しく過しました。 横浜市 (山崎製パン) お正月はみんな揃つて成

りますが、人手不足のため つた。 タリームの製造をやつてお、もある。給料はまあまあだ 関東名物の風も吹かず今|から六時迄の勤務で、仕事 東京都(ライカクリーム) 福原基太郎(上川手) | 事は洋菓子の仕上げで八寺 天気の良い日が多い。仕

# 正月には松之山へ帰つた

人の場合、よそに比べれば 最低だろう。ポーナスも要